

STUDENT EXCHANGE NEWS



近江兄弟社中学・高等学校 国際交流委員会・留学生センターニュース

ISSUED BY THE INTERNATIONAL EXCHANGE COMMITTEE, OMI BROTHERHOOD SR. & JR. HIGH SCHOOLS

新しい姉妹校ができました ～台湾・長栄高級中學との提携～



左から長栄高級中學の王昭卿校長、陳宗彦理事長、池田健夫理事長、藤澤俊樹校長（調印式にて）

長栄高級中學が日本に姉妹校(特に関西)を作りたいということで、林先生が再度本校を紹介してくださり、昨年9月に長栄高級中学理事長を始め、校長先生、理事会の役員の方々20名がヴォーリズ学園を訪問され、姉妹校提携に至りました。

去る2016年12月5日、池田健夫理事長、藤澤俊樹高校長、豊田秀三国際部長が、台湾台南市の長栄高級中學を訪問し、同校において姉妹校提携の調印を行いました。

長栄高級中學との交流は、本紙 No.233 (2016/10/3 発行) のとおり、1990年に第一回の分散型形骸研修旅行の訪問先の一つとして始まりました。きっかけは、35年ほど前にヴォーリズ学園(当時は近江兄弟社学園)で理科の教師をされていた林茂宏先生(現・国際シャロームキリスト教会牧師)が、長栄高級中學の謝季宏理事長と長栄中学時代の同級生であったことから紹介を受けたことによります。研修旅行では、この年に長栄高級中學と淡江高級中學の両方を訪れましたが、翌年からは淡江高級中學だけになり、長栄高級中學との交流は途絶えておりました。



広いキャンパスを見学

長栄高級中學は台南に位置しますが、台北の淡江高級中學と兄弟校で、創立者は共にカナダ人宣教師 Dr. Mackay です。ヴォーリズ来幡より20年ほど前の1872年に台湾に渡り、Mackay博士は台湾内を布教活動しながら歯の治療をして回られたそうです。彼が設立した病院は、「馬偕紀念医院(Mackay

MemorialHospital)」(台北)と呼ばれています。学校だけでなく病院があることもヴォーリズと共通しています。

長栄高級中学は創立 130 年のキリスト教主義の私立学校で、幼稚園から高校までの生徒数は 5400 名で、広大なキャンパスを有しています。世界に 10 校の姉妹校があり、そのうち日本には岩手、神奈川、本校の 3 つだそうです。本校のハイド館のように博物館としての部屋もあり、長栄高級中學に關係する様

々な歴史的資料や生活用品など民族博物学的な展示物も多数あります。

普通科 1 学年 13 ~ 14 クラスで一年生は全員が日本語必修だそうです。

姉妹校提携後の交流内容はこれから具体化していくことになります。まずは、高校の研修旅行の交流先として、ホームステイも大丈夫だとの返事を頂いていますので、現 1 年生の訪問先になるかもしれません。

アジアの高校生を受け入れて交流

～シンガポールからのホームステイ～



ステーションセンターで一緒に昼食の時間を持ちました。6 限目の時間に、礼拝堂において歓迎会を持ちました。

7 限目は、授業体験ということで、武道場において、柔道部と剣道部の協力を得て、柔道と剣道の体験をしていただきました。ほとんどの人は初めてで、真剣に取り組んでいました。



今年度もまた、海外研修旅行で交流しているシンガポールの St. Andrew's Junior College の一行 38 名(生徒 34 名[女子 24 名、男子 10 名]、引率教員 3 名、カウンセラー 1 名)を、11 月 25 日(金)から 28 日(月)3 泊 4 日の日程で受け入れました。

25 日の昼過ぎに本校に到着しました。研修旅行のシンガポールコースの生徒たちが出迎え、教育会館の横で焼きそばを調理し、エク

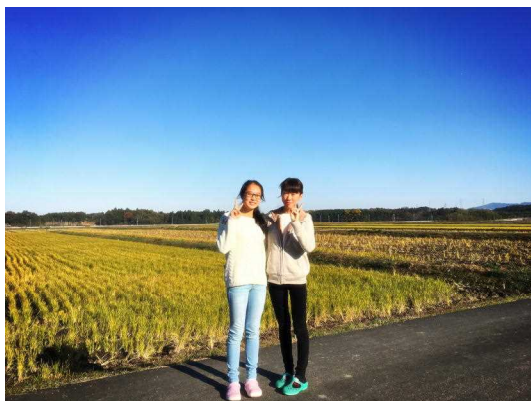
放課後、ホストファミリーと対面し、St. Andrew's Junior College の主催で、学校近くの会場(興平)で夕食交流会が開かれました。

土日は、ホームステイをし、ホストファミリーの接待で、各家庭ごとに過ごしました。28日(月)、ホスト生徒と共に登校し、朝の礼拝から2限目まで、ホスト生徒と一緒に通常授業の体験をしました。その後、ホストファミリーとお別れをし、近江八幡駅から京都に向かいました。

ホスト生徒の感想文を紹介します。

気持ちと笑顔で

G26 辻 來未
ゲスト生徒 Shi Min



SAJC (St. Andrew's Junior College) との交流をすることにより私自身気付かされたことがあります。それはたとえ言葉が通じなくても伝えたいという気持ち、そして笑顔があれば言語という境界線は乗り越えられるということです。シンガポールは多国籍国家ということもあり私のホームステイ先ではお父さんがマレーシア人、お母さんがインドネシア人というお宅で過ごしました。英語ではない言語が家庭の中で飛び交っていて私の頭の中はパニック。そのような状況である私を気遣ってくださっていたのか、お母さんお父さん共に笑顔で迎え入れてくれました。

そして10日後、こちらも家族全員が笑顔で歓迎して楽しい4日間がスタートしました。土曜日は家族で過ごす一日でした。紅葉のライトアップを見に連れて行ってあげたり、シンガポールにはない田んぼ道を散歩したり、日本ならではのおもてなしを心がけました。お母さん、お父さん、祖母、祖父を含めた6人での夕食はとても賑やかで日本とシンガポールの違いなどを家族と共にたくさん話したりしたとても楽しい時間で、家族共々今回の交流を楽しむことができました。お別れの日の朝、Shi Min が家族の前で手紙を読んでく

れてみんな揃って大号泣。家族全員が今回の受け入れをサポートしてくれたおかげで、Shi Min も日本が大好きになって帰ってくれました。本当に充実し、良い経験のできた交換プログラムになりました。

二人分の意見や話を聞いた

S25 梅野 円花
ゲスト生徒 : Lim Shi Qi
Kimberly Tiang Jia Ying



私の家には二人のSAJCの生徒が来てくれました。最初は二人なんて絶対大変や、と思っていました。しかし、実際受け入れてみると人数が多い方が楽しく二人分の意見や話を聞くことができたのでより良い体験ができたと思っています。

土曜日は研修旅行の班全員で京都へ行き、着物を着ました。楽しそうに柄を選び着物で京都の街に出ました。神社へ行ってみんなでおみくじを引いたり屋台で買い食いをしたりしました。そして、お昼を食べよう、となったのですがSAJCの生徒たちが不思議そうな顔をし始めました。その理由はこんなにお腹が苦しいのに今からご飯を食べるのか、ということでした。確かに多少お腹が苦しいのですが、ご飯を食べれないというほどではありません。しかし、彼らは「有り得ない!!」という反応なので、結局着替えてお昼ご飯を食べました。今回で着物のようにお腹が締め付けられている服は海外にはあまりない、ということと着物の文化は日本独自のものと実感しました。

日曜日は祖母の家で朝から座禅体験をしたりみかんの収穫をしたり、たこ焼きを作ったり、お買い物をしたり、たくさんのお話を一緒にしました。何本か電車を乗り継いだのですが、彼女たちはその度に動画を撮っていました。その理由はシンガポールには地下鉄し

かないからです。シンガポールは土地が狭く、地上にレールを引くスペースもないそうです。みかんの収穫もとても楽しそうにしてくれました。シンガポールには農地もないので何かを収穫することもできないそうです。田んぼも全くないので私たちにとっては日常の光景でも違う国の人たちからすれば珍しい光景であることを知りました。

これらのように今回の交流を通してたくさんのお話を学ぶことができました。特に日本とシンガポールとの文化や教育、環境などの違いを学ぶことができました。彼女たちとは今も SNS で連絡を取り合っています。これからたくさんのお話を学びたいと思っています。

末っ子同士で

P22 宇野 遊

ゲスト生徒 : Zoe Chia Hui Lin



私はシンガポールコースではありませんでしたが、今回受け入れをさせていただきました。

私の家にステイしたのは、Zoe という女の子です。初めは 2 人とも緊張してなかなか話すことができませんでしたが、一緒にいる時間が長くなるほどたくさん話すことができました。今思えば最初からもっとたくさん話しておけば良かったと後悔しています。正しい英語の文で話さなくても自分の知っている単語を並べて口に出してみると案外通じて、それでいいんだ、と安心したのを覚えています。

Zoe には 2 人の姉がいます。私にも 2 人の姉がいます。このことを知ったときには "Same! Same!" と 2 人で喜んでいました。同じ末っ子同士ということもあり気があうことも多々ありました。例えば、面白いことをして

みんなを笑わせようとするところです。生まれた国は違っても共通することがたくさんあるな、と思いました。

もっと英語を勉強して単語を並べただけではない会話ができるようになりたいと思いました。今度は私がシンガポールに行って、Zoe に色々な所を案内してもらいたいです。

再会を約束

111 西川 天音

ゲスト生徒 : Foo Jin Yee Atalya



アタリアとは、初めて会った時から彼女のシンガポールの友達と学校を見て回り、同じ部活に入っている友達と出会って意気投合したり、日本の学校について興味津々で質問してくれました。みんな陽気で、そして笑顔で、素敵だと感じました。アタリアはたくさんのお土産を用意してくれ、それを紹介しながらシンガポールについてたくさん話してくれました。妹と遊んでくれたり、買い物へ行った時、プレゼントしてもらったりと本来なら受け入れる立場の私は、逆にたくさんの温かい気持ちをもらいました。短い間でしたがとても濃く、楽しい時間を過ごしました。それと同時に自分の住む国の文化をもっと知る必要があると気付かされました。

私はまだまだ日本について知らないことがあると思います。英語やコミュニケーションだけでなく文化や歴史をもっと学びたいと思います。そしてアタリアは将来、ツアーガイドになりたいから、今度私がシンガポールに行ったら、あなたを案内をする！と約束してくれました。その約束を果たす日までに様々なことを頑張り、笑顔でまた再会したいと思います。



Merlion